

生涯学習・社会教育関係職員研修講座

東青地区研修

7月8日(木)県総合社会教育センター 受講者17名

この事業は、「生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上のため、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と、人材育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る」ことをねらいとしております。

地区研修では、県内6地区それぞれの社会教育・生涯学習関係における課題を踏まえ、その解決に向けたお話をして下さる講師を迎え、講義・演習としております。

今回の東青地区研修では、「事業の評価・改善」をテーマに設定しました。

講師は、秋田大学大学院 教授 原 義彦 氏です。

原先生は、筑波大学大学院修了後、宮崎大学生涯学習教育研究センターで講師、助教授を務められ、秋田大学 教育文化学部 教授を経て、現在は、秋田大学大学院 教育学研究科 教授でいらっしやいます。また、2018年度からは秋田大学 教育文化学部 附属中学校 校長もお務めになっておられたそうです。

今回は原先生から、事業評価の視点や方法、具体的手順から注意を要する点に至るまで、多岐にわたる御指導を頂戴しました。

なお、本研修は講師原先生に、秋田県よりWEB会議システムを通じて御講義いただくオンライン研修として実施しました。



講義「地域の事業計画と評価・改善」

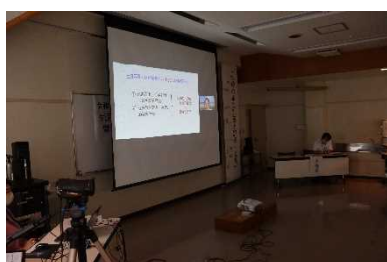
講師 秋田大学大学院

教授

原 義彦 氏

講義要旨

- 事業評価とは、設定された教育・学習の目標にどれだけ達成したかを確かめるために、情報や証拠を集め、その達成度を判断することです。
- 適切な評価をするためには、「評価ができる目標を立てる。」「目標の中に実施後に評価する内容を盛り込む。」といった意識付けが大切です。
- 事業評価にあたっては、アウトプット（事業実績）の評価にとどまらず、その成果や効果であるアウトカム（事業の効果、目標の達成度、施策目標達成度）の評価であることを意識するようにしましょう。



冒頭、原先生から「今年は、『社会教育』という言葉が使われてようになって100年目にあたります。社会教育に携わる人にとっては、節目の年と言えます。これまでの100年、社会教育が連続と培われてきたように、今、我々が行っている社会教育が、100年後の人々にも受け繋がれていくことを目指して参りましょう。」との励ましの言葉がありました。

講義はまず、評価とは何かから始まり、その特性、目的及び意義、種類等、また計画との一体性について等、様々な視点からの理解を促すものでした。

中でも、事業評価の手順は、事業目標から評価項目を抽出するという作業をすることにより、事業目標の中に、評価は埋め込まれることを実感したり、またうまく抽出できない場合には、その事業目標が曖昧であったり、抽象的であったり、設定するには大き過ぎるものであったりすることを、学びました。

演習「社会教育事業の事例を題材にした、事業評価のデザイン」 ～観点別の評価、評価項目、評価指標の作成～

続いての演習でも、引き続き原先生に御指導いただきました。

行った演習は、とある事業について、そのねらいや運営上の工夫、成果や参加者の声、課題と展望などが1枚にまとめられたシートを使い、その事業の必要性を読み取ったり、ねらいから評価項目及び評価指数を抽出したりするというものでした。



4～5人で1班になり、まずは個人で作業、続いてグループで検討するという流れで行い、そのグループ検討を踏まえた結果について、原先生より御助言いただきました。

特に、事業の必要性を読み取る作業については、その根拠となり得る資料や調査項目などは様々に考えられるがために、なかなかグループ内でまとめるのが難しい様子でしたが、原先生より「～のように考えてはどうですか。」などの御助言により、事業評価についての示唆をいただきました。

(受講者の感想)

- ・ 大変勉強になりました。事業評価シート、大変悩みましたが、講座等を企画する上で足りない部分、目標と評価でした。スタッフ間の関係も改善されると確信いたしました。私たちの意識を変え、100年後に向かっていきます。ありがとうございました。
- ・ 目標やねらいをしっかりと定めておくことが評価の際に役立つ、事業を正しく評価でき、質を高めていくことができると思いました。
- ・ これまで公民館事業を実施してきたが、計画の段階で評価まであまり考えていなかった。予算をとるため、参加人数や講座の実施回数や予算ばかりを見ていて、その事業の目的をきちんと考えてはいなかった。評価は重要であり、今後、計画の時点で評価を考えながら作成したい。
- ・ 評価項目と評価指数の区切りがよく分かるとともに、計画の段階でしっかりと立案することが大切だということを再確認できました。ありがとうございました。
- ・ 少し難しい内容でしたが、基本となることなので、大変勉強になりました。やらなければならないから、ではなく目標を定めていくことを考えたいです。
- ・ 形式的な評価だけでなく、事業等必要性等、利用者の視点での評価が大切だと感じました。

適切な評価と改善がPDCAサイクルを回していきます。

100年後、社会教育行政はどのような展開を迎えているのか、原先生の冒頭の呼びかけが受講者に強く響いた研修となりました。